

# 大宜味に県内最大野菜工場

## おおぎみファーム10月稼働

### 顧客に応じ多品種栽培

【大宜味】おおぎみファーム(大宜味村、洲上浩一社長)は10月から、村塩屋の企業支援貸貸工場で県内最大規模の植物工場を運営する。多品種の葉野菜を顧客の注文に応じて計画生産し、農業・化学肥料を使わない栽培方法にも取り組む。村のミネラル豊富な湧き水を利用して健康長寿の「大宜味ブランド」を県内外に発信するほか、地元の障がい者の就労支援にも一役買う。3



年後には年間1億円の売り上げを目指す。

敷地面積1300平方メートル、多段式の植物工場を整備し、

植物工場の稼働を前に産業振興への期待を語った(右から)洲上浩一社長、島袋義久村長、大場明憲社長、濱畑直哉社長=7日、大宜味村塩屋のおおぎみファーム



植物工場内のイメージ (おおぎみファーム提供)

栽培には村の安根川上流のカルシウムやナトリウムを多く含む湧き水を利用。リーフレタスの場合、1日当たり2千株栽培できるという。スーパーや個人経営の店舗など顧客からの相談をもとに、100種ほどの葉野菜を栽培。ニーズの高いクレソンやルッコラ、県内にはない葉野菜の栽培を想定している。7日、同社で事業概要を説

明した洲上社長は「買手の要望に応じて計画生産するビジネスモデルを構築したい」と意欲を示した。

就労支援事業のエスペレ(名護市、濱畑直哉社長)と連携し、常時11人の障がい者を雇用する。

濱畑社長は「障がい者のQOL(生活の質)の向上につながる全国的にもまれな取り組み。モデルケースになれば」と期待した。

おおぎみファームは総合建設コンサルタントから農業分野に進出したオオバ(東京、大場明憲社長)の子会社。大場社長は「ファームの成果が村や北部の振興に役立つことを願う」とあいさつ。島袋義久村長は「大宜味の水という財産に目をつけてくれた。植物工場と地域産業の発展を期待している」と述べた。